

長野県で震度5弱を観測する地震発生

4月18日、長野県で震度5弱を観測する地震が発生し、久しぶりに関東地方でも緊急地震速報が流れました。

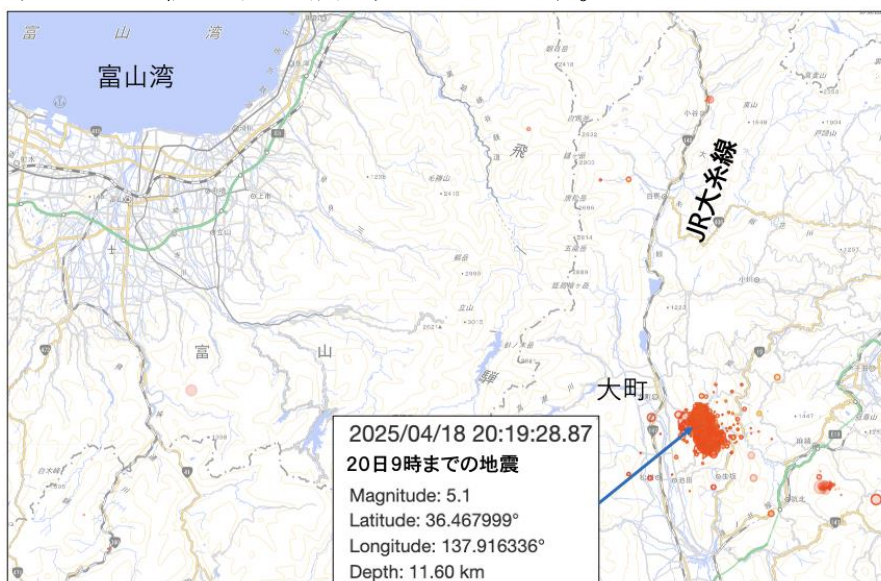
この地震で、NHK は通常番組を中断し、かなり長時間の地震報道となりました。

幸いこの地震そのものの物的被害はほとんど報告されませんでした。北陸新幹線が一時停電する等の影響が出ました。

この地震で一番危惧されるのが、地震が糸魚川—静岡構造線沿いで発生した事かと思ひます。

糸魚川—静岡構造線は、中央構造線と並び、日本で最大級の活断層と言えるものです。内閣府の報告書でも今後30年以内にマグニチュード7を大きく超える地震発生の可能性が極めて高い活断層に区分されています。今後しばらくは大きな地震を誘発する可能性が存在する事を心の片隅に留めておいて頂ければと思ひます。

次の図は4月20日9時時点の地震発生状況です。過去1週間の地震のみプロットしています。体に感じない地震を含めすでに500個近くの地震が発生しています。



この長野県の糸魚川—静岡構造線については、政府・地震調査委員会が下記のような30年確率を公表しています。これは南海トラフにおける巨大地震発生確率が30年以内に80%というものと同じ性質のデータ。今回の震源域(北部)では最大でも16%となっており、あまり大きい値では無いとお感じの方も多いかと思ひますが、実は内陸地震ではこれは極めて高い値なのです。

たとえば30年前の阪神大震災ではこの値は 0.02%~8%, 2016 年の熊本地震ではほぼ 0%-6%, 昨年の能登半島地震では事前評価すらされていませんでした。

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/major_active_fault/#810

内閣府が公表している地震発生確率 (30年以内)

糸魚川—静岡構造線断層帯	北部(小谷—明科) 区間	7. 7 程度	0. 009%~16%
	中北部(明科—諏訪湖南方) 区間	7. 6 程度	14%~30%
	中南部(諏訪湖北方—下葛木) 区間	7. 4 程度	0. 9%~8%
	南部(白州—富士見山) 区間	7. 6 程度	ほぼ0%~0. 1%



長野県だけでなく、大分県・別府周辺でも群発地震発生

先週号で山口県北部での“奇妙な群発地震活動”について報告させて頂きました。こちらも引き続き活発な地震活動が続いています。次の図は山口県北部でこの1週間に発生した地震活動です。



また山口県北部だけでなく、大分県・別府周辺でも群発地震活動が**4月18日**から開始しました。こちらは有感地震も発生しています。日本列島全体として、地震活動が活発な状態になってきたのかもしれない。



北海道および首都圏の地下天気図®

今週号では4月18日時点の北海道のMタイプ地下天気図と首都圏のLタイプ地下天気図をお示しします。

北海道については、3月3日のニュースレターでお示したものと大きな変化はありません。北海道西方沖の静穏化が今回の地下天気図でも見ることができます。

首都圏については、前回3月10日のニュースレターでお示したものと大きな変化はありません。こちらは首都圏の地震活動(深い所まで地震が発生している)を勘案して、深さ200kmまでに発生した地震を解析に使用しています

ちなみに千葉県北西部は「地震の巣」と呼ばれる地域で、東京で大きな震度を観測する地震のかなりがこの千葉県北西部の60から80km付近を震源としています。この千葉県北西部の地震について、東京科学大学(元の東京工業大学)の中島淳一教授がこれらの地震活動の原因がかつて沈み込んだ海山が原因である事をつきとめたと発表しています。

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20250418/k10014782301000.html>

